

微生物部のしごと

平成 14 年度より微生物部という名称に変更いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。微生物部は 3 科から成り、衛生動物科(今までは寄生虫・疫学科)、細菌科およびウイルス科で、計 8 名(他に兼務 1 名)のスタッフで仕事に取り組んでいます。

各科の仕事を簡単に紹介します。

1. 衛生動物科

日常生活上、身近にいて不快感などを起こしたり、食品中に誤って混入したダニ、シラミ、ゴキブリ、クモ、ハエやカなどの衛生害虫の種類を決めたり、駆除方法などを調べています。

また、地方病(日本住血吸虫症)は終息宣言がなされましたが、それ以降も継続的に中間宿主であるミヤイリガイの生息調査を行っています。

そのほか、マラリア症やアメーバ症などの寄生虫病の検査も実施しています。



2. 細菌科

食中毒事件が発生した時に、保健所と協力して糞便や食品から食中毒の原因菌を見つけだし、菌の性状をも調べています。

また、赤痢、チフスやコレラなどの感染症発生時に、保健所と共同で下痢症の原因



ダニ 細菌 ウイルス

菌を調べます。

大腸菌 O157 による感染症においても、糞便や食品からの菌検索を行っています。

そのほか、サルモネラ属菌や結核菌の確認試験、治療のための薬剤感受性試験も実施しています。



3. ウイルス科

医療機関のウイルス感染症患者からウイルスを分離して、種類を決めウイルス感染症の発生や流行状況の動向を調べています。

冬に流行がみられるインフルエンザの患者から原因となるインフルエンザウイルスを分離し、ウイルスの型や性状を調べ、流行しているウイルスの解析を行っています。

以前は冬期に多くみられたウイルスによる食中毒は、年間を通じてその発生があり、発生時にはその原因ウイルス(ノーウォークウイルスなど)の遺伝子検査も実施しています。

